

第2回経営発達支援計画事業評価委員会 会議録

- 1 招集通知 令和 2年 2月21日 (金)
- 2 開催日時 令和 2年 3月10日 (火) 13:30~14:20
- 3 開催場所 瀬戸内市商工会 本部2階会議室
- 4 出席者 6名 委員長 福池 幹夫 (商工会副会長)
副委員長 福崎 勇 (商工会副会長)
委員 藤井 雅司 (経営支援事業委員会副委員長)
山口 卓男 (地域振興事業委員会委員長)
神坂 俊規 (地域振興事業委員会副委員長)
岡部 峯子 (女性部長)
欠席 石田 茂樹 (経営支援事業委員会委員長)
吉近 翔大 (青年部長)
頓宮 忍 (瀬戸内市産業振興課課長)

5 議長 福池 幹夫

6 協議事項

- ①令和元年度事業の実施状況報告について
- ②令和2年度事業の取組みについて
- ③その他

7 議事の経過と結果

(開 会)

午後1時30分、事務局(石井事務局長)が第2回事業評価委員会を開催する旨を宣し、続いて、福池委員長が開会あいさつを行った。

<あいさつ趣旨>

- ・平成26年小規模基本法の改正を受け、平成27年11月、5か年の経営発達支援計画を策定し取り組んだ。
- ・この経験を踏まえ、次の5か年の経営発達支援計画を昨年10月に経済産業省へ「瀬戸内市」と連名で認定申請している。
- ・この経営発達支援計画を効果的に実施し地域の発展につなげていくためには、行政との連携を一層強固とし、一体となって取り組んでいく必要がある。
- ・本委員会の役目は「経営発達支援計画」に係る取組みの「正確な評価」、さ

らに効果的に推進するための「協議」を経て、理事会に提案していくことであり、重要な事項であるので慎重審議をお願いします。

(協議事項)

福池議長は「①令和元年度事業の実施状況報告について」を上程し、事務局に説明を求めた。

事務局（松本課長）は「①令和元年度事業の実施状況報告について」のうち、経営発達事業について、資料1、資料2、資料3、資料4に基づき説明した。続けて、事務局（石原課長）は地域振興事業について資料1、資料5に基づき説明した。

福池議長はこのことについて意見を求めたところ次のような発言があった。

<発言要旨>

福崎副委員長：今の計画は最後の年となるのか。

事務局（松本課長）：5か年計画最後の年である。また、次の5か年計画を策定、申請しており、採択については3月中の発表が予定されている。

福崎副委員長：会員事業所のためにもなり、また、新会員の加入促進にもつながることなので、強力に推進する必要がある。

瀬戸内市との連携はどうなっているのか。

事務局（松本課長）：今までの5か年計画は瀬戸内市との連携であったが、次の5か年計画は瀬戸内市との連名による申請となっている。

福池議長：瀬戸内市による山頂毛の購入が決定しているが地域振興事業においては瀬戸内市と連携した取り組みができるのではないかと。

事務局（石原課長）：観光ルートに「刀剣博物館」を組み入れるなども展開できる。

福崎副委員長：山頂毛の寄付はまだ増えているのか。

事務局（石井事務局長）：3月8日現在で寄付総額が85,000万円を超え、購入等に使える額が61,200万円となっている。

福池議長：刀剣博物館の駐車場の手狭さを指摘する声もあるが、近隣の土地を賃借することも検討されている。また、長船駅からのアクセスも観光バスが入れるように道路が拡幅されている。

国宝を所有することで他の国宝と交換展示の機会も期待でき、また、刀剣ブームもあることから集客が期待できる。このことは市内他地域の訪問も期待できるため、会員事業所における消費も増加が見込める。

藤井委員：経営支援の支援対象は若い方などの新しい事業所が多く、古くから営んでいる事業所の支援の割合が少ないのではないかと。

情報提供がしっかりとされているか。

事務局（松本課長）：情報提供は行っており、反応のあった事業所を支援対象としている。

藤井委員：提供された情報が理解できない事業者も多いのではないかと。

事務局（松本課長）：施策をわかりやすく説明することは重要である。そのために、事例集を作成し配布したところ、15事業者から問い合わせがあった。さらに理解しやすい方法も検討したい。また、アイデアがあればぜひ、提供いただきたい。

事務局（石井事務局長）：経営指導員の経営指導能力の問題もあるため、レベルアップも必要である。人事交流も進められており、分け隔てない支援も反省点とし、努めたい。

福池議長：後継者があるところは積極的に取り組むだろう。

事務局（松本課長）：後継者の育成は課題になっている。持続化補助金を後継者が主担当として経営指導員と取り組むことで育成につながっている。

山口委員：持続化補助金はどういったものか。

事務局（松本課長）：新たな取り組みの販売促進に係る上限50万円のささやかな補助金である。経営指導員と一緒に取り組むことが特徴である。

福池議長は「②令和2年度事業の取組みについて」を上程し、事務局に説明を求めた。

事務局（松本課長）は「②令和2年度事業の取組みについて」のうち、経営支援事業について資料6に基づき説明した。続いて、事務局（石原課長）は地域振興事業について資料6に基づき説明した。

福池議長はこのことについて意見を求めたところ何もなかった。この通り取り組みすることとしてよいか諮ったところ、全員の賛成により了承された。

福池議長はその他に何か協議事項はないか諮ったところ何もなかった。

本日の協議の結果を理事会へ提案していくと述べ、議長の座を降壇した。

（閉 会）

福崎副委員長は、閉会のあいさつを述べ終了した。時に、午後2時20分であった。